

がん治療等における歯科的支援

一郎

国民みんなでスクラムを組んで歯に立ち向かう

「がん対策基本法（平成18年法律第98号）」に基づき政府が策定した「がん対策推進基本計画（平成24年版、5カ年計画）」に下記のように謳われている。

『国と地方公共団体、また、がん患者を含めた国民、医療従事者、医療保険者、学会、患者団体を含めた関係団体とマスメディア等が一体となってがん対策に取り組み、がん患者を含めた国民が、様々ながんの病態に応じて、安心かつ納得できるがん医療や支援を受けられるようにするなど、「がん患者を含めた国民が、がんを知り、がんと向き合い、がんに負けることのない社会」の実現を目指す。』

この中で、歯科に関しては下記のように取り上げられている。

（取り組むべき施策）

『各種がん治療の副作用・合併症の予防や軽減など、患者の更なる生活の質の向上を目指し、医科歯科連携による口腔ケアの推進をはじめ、食事療法などによる栄養管理やリハビリテーションの推進など、職種間連携を推進する。』

『手術療法による合併症予防や術後の早期回復のため、麻酔科医や手術部位などの感染管理を専門とする医師、口腔機能・衛生管理を専門とする歯科医師などとの連携を図り、質の高い周術期管理体制を整備するとともに、術中迅速病理診断など手術療法の方針を決定する上で重要な病理診断を確実に実施できる体制を整備する。』

歯科の役割

がん治療等を完遂するためには、手術や抗がん剤治療、放射線治療であっても、それに耐えられる体力が必要となります。治療開始前はもちろん、治療中にも、体力を維持増進するためには、食事をしっかり摂ることができるかどうかは重要なことです。

歯周病で歯が抜けていたり、義歯が合っていないかったり、虫歯で歯が欠けていたりすると、十分な栄養をとることができません。

そこで、「がん」と診断されてからできるだけ早期にお口の状態を確認し、必要であれば歯科治療を行い、がんの治療に耐えられる栄養摂取が可能になるように医科との連携を行っています。日常からお口のお手入れが行われていれば慌てることはないのです。

また、歯周病も虫歯も感染症であり、お口の中は

細菌の住処になっています。がんは比較的高齢者に多く発生するため、手術後の体力低下により、嚥下機能が低下し、細菌の繁殖した唾液を間違えて肺の方へ飲み込み（誤嚥）、誤嚥性肺炎が発症しやすくなります。誤嚥性肺炎になると発熱や咳などで体力の消耗をきたし、さらには栄養摂取が難しくなり、免疫力も低下するという悪循環に陥り、入院期間が延びて社会復帰が遅くなることもあります。定期的に口腔ケアを行い、口腔内を清潔に保つお手伝いをさせていただきます。

がん治療等と歯科の関わり現状

①がん治療等の歯科的支援（周術期口腔機能管理）

がん以外にも表1のような疾患が対象となります。

②医科からの依頼件数（グラフ1～3）

周術期口腔機能管理の対象

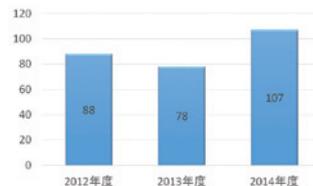
- ・がん等の全身麻酔手術
- ・がんの化学療法
- ・頭頸部領域がんの放射線治療
- ・骨髄幹細胞移植・臓器移植
- ・人工関節置換術前
- ・心臓弁置換術前
- ・ビスホスホネート製剤あるいはランマーク投与前
- ・顎骨壊死の予防
- ・気管内挿管中の患者の口腔ケア
- 人工呼吸器関連肺炎

表1



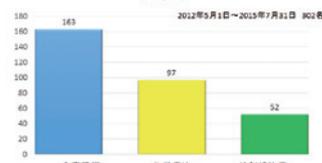
グラフ2

周術期口腔機能管理依頼件数
2012年5月1日～2014年3月31日、273件



グラフ1

周術期口腔機能管理依頼件数
治療別



グラフ3（がん以外の全身麻酔を含む）

グラフ4

齧蝕や歯周病が半数以上の患者さんにみられました。

義歯の使用は142例に見られ、その内の25例が上下総義歯でした。

また、義歯を装着しても奥歯でのかみ合わせができない方も1割近くいました。

今後の課題

お口の中を清潔に保つことの意義をご理解いただき、治療後もセルフケアを含めて口腔ケアに関心を持っていただけるように頑張りたいと考えています。